

米軍無人偵察機の嘉手納基地配備計画に抗議する意見書

令和5年10月6日、本町に来訪した防衛省幹部等から「海上自衛隊鹿屋航空基地に一時展開している8機の米空軍無人偵察機MQ-9と隊員約100人が期間を定めずに嘉手納基地に配備され、11月から運用開始される」との説明があり、今月22日までに計6機が飛来した。

防衛省は鹿屋航空基地への一時展開に際し事前に住民説明会の開催、デモ飛行、騒音測定等を重ね、さらに鹿屋市と九州防衛局において安心安全対策など運用に関する協定書を締結するなど慎重に進めてきたとの事だが、嘉手納基地への配備においては本町への説明からわずか1週間後には1機目が飛来しており、歴然たる対応差に不信感は高まるばかりである。

同機は鹿屋において今年8月、基地内の滑走路を逸脱し地上施設に接触する事故を起こし、1ヵ月以上飛行停止していた。米側の調査で機体の安全性が確認されたとして飛行再開したが、事故原因が公表されないなかでの嘉手納基地への配備には強い憤りを禁じ得ない。

沖縄防衛局による本町議会への説明会においても、安全確保を求める声があがったが、その懸念を払拭するには至らなかった。

防衛省の資料によると同機は滞空時間が長く頻繁な離着陸がないこと。騒音は約75デシベル程度と戦闘機と比べ小さいこと。複数の飛行制御システムを持ち、航空管制に従って飛行すること。駐機場は住宅地から離れた場所とするなど、ことさら基地の負担増にはならないことを強調するが、嘉手納基地においては常駐機、巡回配備機、外来機が入り混じり、日常から昼夜問わず轟音を立てながら離着陸・飛行訓練を行っている。またパループの使用についても当初の説明に反しHH-60ヘリが頻繁に使用し、早朝から夜遅くまでエンジン調整音が鳴り響くなど周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が発生している。

南西地域周辺での情報収集、警戒監視及び偵察能力の強化が求められていることは承知しているが、具体的な負担軽減策が示されないなかでの無人偵察機の無期限配備は基地の機能強化、負担増に他ならず断じて容認できない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び平穏な生活を守る立場から、米空軍無人偵察機MQ-9の嘉手納基地配備計画に抗議し、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 鹿屋航空基地で発生した滑走路逸脱事故原因を速やかに公表すること。
- 2 米空軍無人偵察機MQ-9の嘉手納基地配備計画について、見直しを含め検討すること。
- 3 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年10月30日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長
沖縄県知事

米軍無人偵察機の嘉手納基地配備計画に抗議する決議

令和5年10月6日、本町に来訪した防衛省幹部等から「海上自衛隊鹿屋航空基地に一時展開している8機の米空軍無人偵察機MQ-9と隊員約100人が期間を定めずに嘉手納基地に配備され、11月から運用開始される」との説明があり、今月22日までに計6機が飛来した。

防衛省は鹿屋航空基地への一時展開に際し事前に住民説明会の開催、デモ飛行、騒音測定等を重ね、さらに鹿屋市と九州防衛局において安心安全対策など運用に関する協定書を締結するなど慎重に進めてきたとの事だが、嘉手納基地への配備においては本町への説明からわずか1週間後には1機目が飛来しており、歴然たる対応差に不信感は高まるばかりである。

同機は鹿屋において今年8月、基地内の滑走路を逸脱し地上施設に接触する事故を起こし、1ヵ月以上飛行停止していた。米側の調査で機体の安全性が確認されたとして飛行再開したが、事故原因が公表されないなかでの嘉手納基地への配備には強い憤りを禁じ得ない。

沖縄防衛局による本町議会への説明会においても、安全確保を求める声があがったが、その懸念を払拭するには至らなかった。

防衛省の資料によると同機は滞空時間が長く頻繁な離着陸がないこと。騒音は約75デシベル程度と戦闘機と比べ小さいこと。複数の飛行制御システムを持ち、航空管制に従って飛行すること。駐機場は住宅地から離れた場所とするなど、ことさら基地の負担増にはならないことを強調するが、嘉手納基地においては常駐機、巡回配備機、外来機が入り混じり、日常から昼夜問わず轟音を立てながら離着陸・飛行訓練を行っている。またパパープの使用についても当初の説明に反しHH-60ヘリが頻繁に使用し、早朝から夜遅くまでエンジン調整音が鳴り響くなど周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が発生している。

南西地域周辺での情報収集、警戒監視及び偵察能力の強化が求められていることは承知しているが、具体的な負担軽減策が示されないなかでの無人偵察機の無期限配備は基地の機能強化、負担増に他ならず断じて容認できない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び平穏な生活を守る立場から、米空軍無人偵察機MQ-9の嘉手納基地配備計画に抗議し、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 鹿屋航空基地で発生した滑走路逸脱事故原因を速やかに公表すること。
- 2 米空軍無人偵察機MQ-9の嘉手納基地配備計画について、見直しを含め検討すること。
- 3 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、決議する。

令和5年10月30日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長